

2008年(平成20年)1月27日(日曜日)

# ヒノキでエコ最優秀

## 可児 温暖化防止シンポ

地球温暖化防止シンポジウム(県地球温暖化防止活動推進センター主催)が二十六日、可児市下恵土の市文化創造センターであり、約二百人が

企業や市民団体の環境問題への取り組みに聞き入った。

初めに同センターが昨年七月～八月に募集した「木の国・山の国 わく環(わ)くコンテスト」

の表彰式があり、集まった九団体の中から五団体が表彰された。最優秀賞には、「東濃ひのき製品流通協同組合」のヒノキくずを使った発電などの

取り組みが選ばれた。同組合の活動は、二月九、十日に環境省が主催する

全国大会で発表される。可児市内四つの団体・

企業は、独自に行っている地球温暖化対策を紹介。同市大森の旭小学校五年の発表では、児童が学習を通して考え出した身近にできるエコ活動を話し、「一人一人が環境を考えて行動しないと」と訴えた。

講演では、三重大学文学部の朴恵淑教授がレジ袋の有料化の三重県での実例を紹介し、ゴア米元副大統領出演の映画「不都合な真実」の上映もあった。

(志村彰太)

【そのほかのコンテスト受賞団体】▽優秀賞 大垣市環境市民会議(レジ袋ないな運動)▽優良賞 NPO法人地球の未来(廃食用油を利用したエマルジョン燃料プラントの開発・普及)▽特別賞 川辺バイオマス発電(川辺木質バイオマス熱電併給事業)、NPO法人竹林救援隊(放置竹やぶの整備)



木の国・山の国 わく環くコンテストで表彰された団体の代表者ら＝可児市下恵土の文化創造センターで

この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。